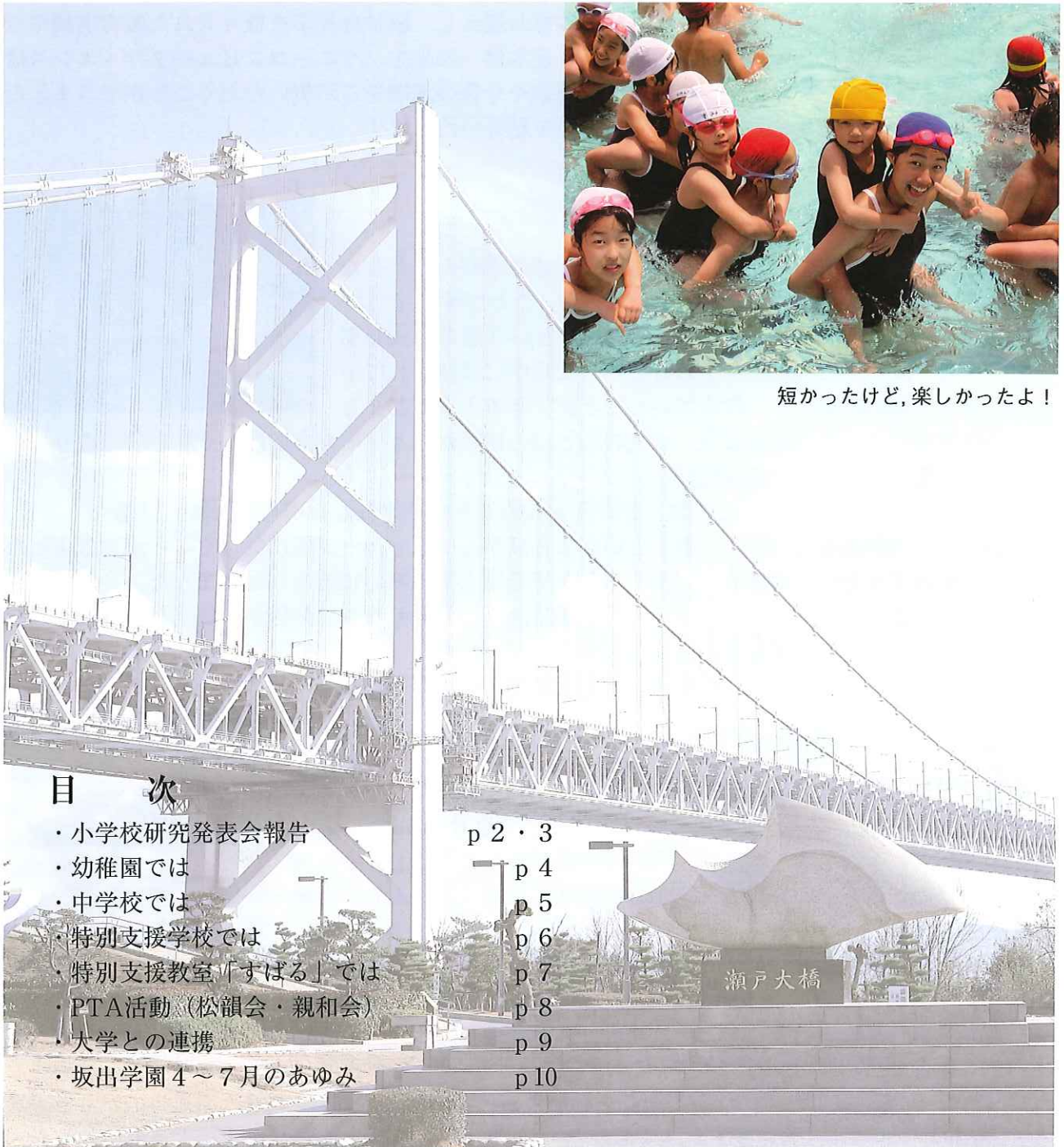


香川大学教育学部

附属坂出学園だより

第27号

2007.7



短かったけど、楽しかったよ！

目次

- ・小学校研究発表会報告 p 2・3
- ・幼稚園では p 4
- ・中学校では p 5
- ・特別支援学校では p 6
- ・特別支援教室「すばる」では p 7
- ・PTA活動（松韻会・親和会） p 8
- ・大学との連携 p 9
- ・坂出学園4～7月のあゆみ p 10

「思考力」をはぐくむ学びの創造(2年次)

—脳神経科学研究との連携—

5月24日(木)、25日(金)の両日、第91回教育研究発表会を開催いたしましたところ、県内外より700名を越える方にご参会いただき、盛会裏に終えることができました。

本年度は、子どもの「思考力」をはぐくむために「思考様式(=思考に関する手続き的な知識)を長期記憶化する授業づくり」「脳の活性化を図る時程編成」「家庭との連携」という3つの視点から、研究授業や協議会等を通して提案いたしました。

また、1日目午後のシンポジウムでは、中村克樹先生(国立精神・神経センター)の司会のもと、長崎大学附属中学校、立命館小学校よりゲストをお迎えし、脳神経科学を取り入れた教育実践や今後の展望に関して話し合い、2日目午後には、茂木健一郎先生(ソニーコンピュータサイエンス研究所)よりご講演をいただき、本校の研究の価値や今後の課題をご示唆いただくことができました。

以下に、一部ではありますが、研究会の様子を紹介いたします。

3年国語 「別の登場人物の立場から想像しよう」

本単元で育てようとした「思考力」は「ことばを手がかりとしながら、そこに書かれていない事柄を想像する」ことです。そこで「2人の登場人物の立場から物語を想像する」という思考様式を用いて、2人の関わりに視点をあてることで、文章中には描かれていない相手への思いに気付き、深めていくことができるようにしました。この思考様式が定着するよう、2人のことばの比較からイメージを広げ、それを読み取りにつなぐ学習を組織しました(精緻化)。

本時、子どもたちは「音」と「歌」という2人のことばを比較しながら、「『歌』は単なる『音』とちがって言葉がある。」など、「歌」ということばがもつメッセージ性に気付くことができました。そして、そのメッセージの内容を想像することで登場人物の願いに迫ろうとしました。

子どもたちは、立場を変えることで発見できる読みのおもしろさに気付き、叙述とつなぎながら想像豊かな読みを展開しました。



6年図画工作 「輝け! クリスタルワールド」

本単元では、色を付けたスライムに光を通し、輝く世界「クリスタルワールド」を表現していきます。ここで培いたい「思考力」は、「表したいイメージに合った色・形の組み合わせや並べ方を考える」ことであり、そのためには自分の表現方法を十分に吟味する場(繰り返し)を確保することが必要になります。

そこで本時は、流動性を抑えたスライムを用いることで、混色、整形、並べ替えを容易にしました。そうすることにより、「色・形の組み合わせや並べ方の効果に着目する」という思考様式の定着を図ることができると考えました。

子どもたちは、見つけた表現方法がイメージに合うかどうか、アクリル板上で何度も試していました。中には、四季を表すためには色の濃淡を利用するとよいことに気付いたり、大地の広がりを表そうと、粒の大きさや並べ方を変えたりするなど、より効果的な表現方法を見出す子どももいました。



附坂小型時程編成

本校では、本年度から、脳の活性化を目的としたドリル教材（音読・計算）を作成し、以下の時程で実施しています。本研究発表会においても午前中は計算を、午後は音読のドリル学習を公開いたしました。参加者からの質問も多く、ドリル学習への関心の高さが伺えました。

ドリル 1校時	2校時	3校時	ドリル 4校時	給食	昼休み ・掃除	5校時	6校時
計算10分間			音読2分間				



子どもの生活習慣向上プリント「Do you 脳？」

学習の土台となる脳は、学校生活のみならず、日々の生活習慣の改善を図ることによっても鍛えられます。そこで、昨年度から本校では、学校と家庭が連携して子どもの脳をはぐくみたいと考え、「Do you 脳？」を発行しています。プリントでは、良いとされる生活習慣を脳の仕組みと関連させ、具体的な手だても含めて掲載するようにしており、本研究会では、これまでに発行した全てを紹介しました。



シンポジウム 「脳神経科学と教育との連携—実践と今後の展望—」



司会者に中村克樹先生（国立・精神神経センター部長）、ゲストに刈山弘全先生（長崎大附属中）、平野泉先生（立命館小）をお招きし、各校のドリル学習の実践交流を焦点としたシンポジウムを開催しました。

平野先生からは、「テンポの重要性」を、刈山先生からは「教科のねらいとの関連」に関して、脳の活性化を目的にしたそれぞれの実践に基づいてご提案いただきました。本校が取り組む「授業づくり」や「時程編成のありかた」に関しても、意見交流をすることができ、有意義なシンポジウムとなりました。

最後に中村先生からは、「ほめること」と「学習」を強固に記憶することの関連性についてお話いただきました。日々の教育実践に活かしていきたいと気持ちを新たにすることができました。

講演 「脳と学習」

講師に茂木健一郎先生（ソニーコンピュータサイエンス研究所シニアリサーチャー、東京工業大学大学院連携教授）をお迎えし、ご講演をいただきました。



「脳は学習することを運命づけられている臓器である。人間の脳にとって、本来学ぶことは喜びであり、生きるということに直結している。教育とは学ぶ喜びを感じさせることであり、そのために、脳の多様性を理解するべきである。」と、当日の本校の実践も例にしながら、教育現場へのメッセージを熱心に語っていただきました。限られた経験のみをさせるのではなく、バランスを取りながら、多様な経験をさせることや、子どもの学習を強化するための条件等、講演の中でいただいたたくさんのご示唆を、今後の実践及び研究に生かして参りたいと思います。



夕涼み会に向けて



入園して約3ヶ月。もうすっかり幼稚園にも慣れた子どもたちは、目をきらきらと輝かせながら自分のしたい遊びを見つけ、黄組のお部屋で、やぐらの周りで、園庭で元気いっぱい遊んでいます。また、降園前のひととき、クラスみんなで歌を歌ったり、踊ったりすることも大好きで、今は「♪おばけなんてないさ」の歌がお気に入りとなっていて、遊びの中でおばけ探しをする程です。本当におばけがいると思っている人もいれば、「そんなのいないよ」と言う人もいますが、それでもやっぱりおばけは怖いようです。でも、「ほんのちょっとだけお友だちになりたいな」という声も…♡。夕涼み会では、このお気に入りの歌「♪おばけなんてないさ」と、一人ひとりの自己紹介も兼ねた「♪あなたのおなまえは」の歌を披露する中で、日常のありのままの姿を見てもらえたなと思っています。また、歌の前にはかわいい踊りも披露！ごりらになったり、かにさんになったり、先生のまねっこをしながら毎日楽しんでいるかわいい踊りです。



毎年6月下旬、赤組さんのお部屋の前にはきれいな朝顔が咲いています。しかし今年は、毎日水やりもしていたのになかなか芽が出ず、ようやく芽が出て、そこからなかなか背丈を伸ばさず、子どもたちは心配でならなかったようです。いつもなら「おはよう」とあいさつに来ていた人が、まずは自分の朝顔の様子を見に行ったり、身の回りの片付けを終えるとすぐに遊びに行っていた人が「朝顔さんに水あげてくるね」と水を汲みに行き、何回も何回もたっぷりとお水をあげたり、『早く咲いてほしいな。大丈夫かな』という思いを感じずにはられません。そんな子どもたちの思いをお日様も見ながら感じてくれたのでしょうか、日曜日、雨雲さんと呼んできてくれ、たくさんの雨を降らせてくれました。そして、たっぷりの水とたっぷりの光を浴びた朝顔が、翌週にはぐっと葉を広げ、つぼみをつけ始めました。今、一人、また一人と、「先生、朝顔さんが咲いたよ」と満面の笑顔で伝えに来ています。夕涼み会には、そんな嬉しい思いのつまった朝顔のうちわを持って参加します。

青組に進級し、5月頃から、子どもたちはいろいろなお店屋さんごっこを楽しむようになりました。自分たちでお店の準備をし、チケットを作って「今、青組で〇〇屋さんをしているので来てください」と黄組さんや赤組さんにお知らせに行きます。そして、来てくれたお客さんに「いらっしゃいませ」「どれがいいですか？」「また来てくださいね」と、本当のお店屋さん顔負けの楽しそうな接客ぶりに、「お店屋さん楽しいんやな。夕涼み会でもする？」と提案しました。「する！」「お弁当屋さんがしたい！」「わたがし屋さんもしたい！」「アイス屋さんも！」…と、子どもたち。お店屋さんに対する思いがここまで強かったのかとこちらがびっくりする程、次々と意見が溢れ出てきました。そして、それらたくさんの意見をみんなで話し合いながら、景品になりそうなものとお店屋さんにしたらいいものに分けていき、今年は、「宝探し」「わなげ」「金魚すくい」の3つのお店を開くことに決まりました。しかし、遊びの中のお店と違って、1つのお店に対して約200個準備をしなくてはなりません。最初は大丈夫かなと心配もありましたが、「こんなもできるんちゃうん？」「本物みたいや」と、楽しみながら準備を進めていく子どもたちの姿に、大きな成長を感じました。きっとお店屋さんを成功させた時には、一人ひとりのさらなる成長を感じることができたり、クラス集団としてのまとまりもぐっと深まったりするのではないかなと期待しています。



「生きること」と「学ぶこと」の統合

— 学びの拡充を促すシャトル学習の開発 —

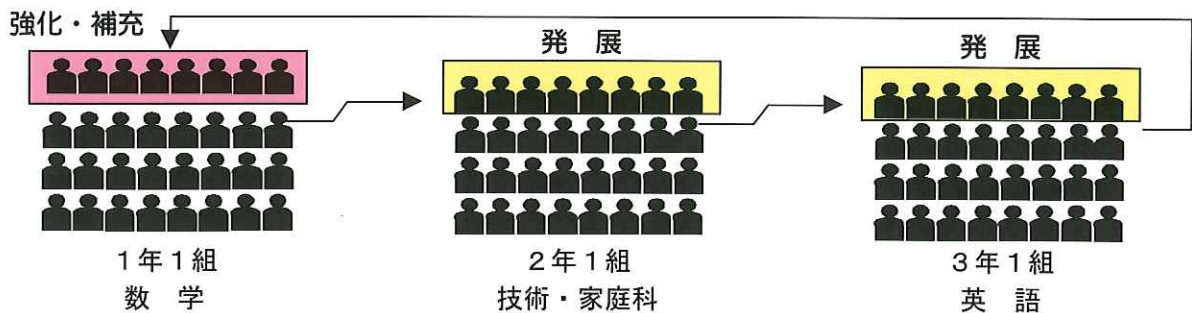
本校では、文部科学省より3カ年の研究開発指定（平成18～20年度）を受け、個に応じた新しい学びのシステム「シャトル学習」について研究を行っています。

シャトル学習

上級学年の授業を上級生とともに受けることで、上級学年の学習の様子や雰囲気を直接感じ、今後の学習改善に生かす学習です。ここでは、自らの意志をもって、先(上級学年)の教科の内容を学ぶことにより、現在(通常学年)の教科の学び方を見つめていくという意図を含みます。すなわち、先と現在を行きつ戻りつしながら自己の学びを開拓していく学習システムなのです。

シャトル学習のイメージ

国・社・数・理・英の中から1教科、音・美・保体・技家の中から1教科全員が履修します。



1年生の数学を履修した3年生8～10名がアドバイザーとして1年生の授業に参加



3年生が1年生にアドバイス

2年生の技・家を履修した1年生8～10名が2年生の授業に参加



1年生と2年生が協力して

3年生の英語を履修した2年生8～10名が3年生の授業に参加



2年生は3年生の発表を聞いて

まるでスペースシャトルに乗って異空間へ移動したかのように、今までと違う空間で交流し、他との意見交換で自分の意見を固めたり、また違う視点に立って物事を見つめたりしました。生徒は其中で今までになかった新しい考えを取り入れ、現在の学年の学習にもどったときに改めて学びの成果を実感できていたようです。9教科すべてにおいてシャトル学習を行い、1教科たった4時間の学習ですが、そこで得たものは、今後の学習においてきっと大きな花を咲かせることでしょう。そして、学習への更なる意欲化が図れるものと期待しています。

今年度のシャトル学習の予定	校内	異校種間合同学習
	<ul style="list-style-type: none"> ■ シャトル学習実施期間 5月11日(金)～7月12日(木) ■ 校内研究授業(OBや大学の先生を指導者としてお迎えして) 5月29日(火) 数学 研究授業 5月30日(水) 理科, 美術 研究授業 6月13日(水) 英語, 保体 研究授業 6月18日(月) 国語, 技・家 研究授業 7月4日(水) 社会, 音楽 研究授業 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大学の先生による出前授業(3年生対象) 10月24日(水) 医, 工, 農, 法, 経 ■ 小学6年生が中学1年生と合同授業 10月下旬～11月上旬 ■ 高校生との合同授業(3年生対象) 11月15日(木), 20日(火) <p>※ 学園運動会でも学年, 学校種を越えた交流活動が期待できます。</p>

地域に根ざした学校をめざして

附属特別支援学校は、坂出市府中町にあります。地域の方とは普段から交流し、様々な場面でご協力をいただいています。特に、本校の学校祭「ふれあい祭り」では、多くの地域ボランティアの皆様を支えられ、また、本校での活動を楽しみにしている近隣の方々にご来校いただいています。

このように温かい地域の方々とのきずなをもっと強くしていきたいという思いで、様々な活動に取り組んでいます。

〈地域を花いっぱいしよう〉

平成18年度には、ビニルハウスが設置され、高等部農耕班を中心に花の栽培が本格的に取り組めるようになりました。

ここで育てた花の苗を、地元、府中小学校や府中幼稚園・保育所に、プレゼントしています。



また、府中産直市にある花壇5基を管理し、パンジーやひまわりなど季節の花を植えたり、草抜きをしたりして、産直の方やお客さんにも、喜ばれています。

〈学校周辺の清掃活動〉

中学部と高等部では、いつも利用しているJR府中駅と付近の通学路の清掃を感謝の気持ちをこめて、行っています。駅周辺のごみを拾ったり、トイレの掃除をしたり、中学部と高等部が交替で行っています。みんなが気持ちよく利用できるように願っています。



**JR府中駅
清掃**



**学校周辺の
クリーン活動**

これらの活動を通して、働く喜びや地域に貢献することの楽しさを肌身で感じ取らせ、一社会人としての成長を願うとともに、府中地区における本校の役割を果たしていきたいと考えています。

特別支援教室「すばる」の取り組み



平成19年度は、特別支援教育の推進が全国的に開始される年であり、教員・保護者共に特別支援教育に対する意識は高まりつつあるように感じます。

ところで、本教室「すばる」は、平成15年度より軽度の発達障害のある幼児から中学生を対象に、放課後通級の形態で個別指導を行ったり、保護者・担任相談を実施したりしてきました。本教室への申込みは、年々増加し、今年は6月末現在で130名を超える状況に至っております。そこで今回は、相談や個別指導の状況について、詳しくお知らせし、現状理解の一助になればと思っております。

ます。

特に今年の特徴としては、保護者相談や担任相談が最初から多く、家庭内や学校内の対応についてのアドバイスを求められたり、家庭と学校との連携についてのアドバイスを求められたりしています。

このアドバイスでは、家庭内の祖父母・父母・兄弟姉妹・本人の関係調整の仕方を助言したり、担任だけでなく本人にかかわる全教職員の共通理解について助言したりすることが多いように思われます。その上に、家庭と学校の連携について、事例に応じた助言を行っていますが、難しいケースも多々あり、困難を感じているところでもあります。

一方、個別指導では、幼児の場合、「学習のルール」を絵や文字で提示したり、基礎的な「かず・ことば」の能力を育てるために、具体物の利用やマッチング学習を行ったり、他人との「やり取り」を理解させるために、遊びの中で交互に活動するためのルールを絵で示すなどを行っています。

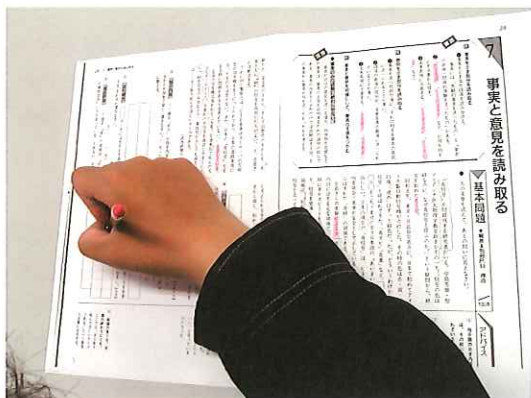


次に小学生では、「友だち関係の理解」を深めるために、ゲーム形式で対応の仕方を学習したり、国語や算数の苦手な部分について、検査結果等を参考にして、その子の得意な部分を利用して指導を積み重ねています。

最後に中学生の指導では、本人の苦手な漢字の書き取りや文章問題の理解を直接的に指導することは、抵抗が大きく、学習が進みにくいことが多々あります。そこで、本人の課題意識をもとに、自分から取り組もうとするような学習を選択させ、その過程でつまづきが予想される場所には事前に印をつけ、注意をうながすなどの配慮

を行ったりしています。

本教室「すばる」に対する要望は、これからも一層高くなることが予想されるため、特別支援教育のスペシャリストであり、ジェネラリストをめざし自己研修に励んでいく必要性を実感しているところです。



幼稚園より



5月30日、第1回目の“お母さん先生”による「青組ミニ保育参加」を行いました。昨年度は、青組保護者の方による読み聞かせでしたが、今年度は、読み聞かせに限らず、保護者の方の得意分野などで保育参加に取り組んでいくこととなりました。

第1回目は、紙芝居「いたずらにんじゃをつかまえる」、ペープサート形式に手を加えた「すきまの国のポルタ」、そして、絵描き歌でした。降園前のひととき、子ども達は、とても喜んでいました。

6月21日、坂出市内幼・小・中学校の下校時間に一斉安全パトロールが行われました。幼稚園でも降園時に正門前にて道の歩き方などの注意の呼びかけを行いました。

「子どもの安全」を保護者や地域の方、先生方の協力で取り組んでいくよい機会となりました。

小学校より

6月9日(土)、土曜クラブ恒例の1年生を対象とした「ウェルカムパーティー」を小学校体育館で開催しました。1東27名、1西21名、保護者54名、兄弟での参加も含め総数117名となりました。子供たちは入学して約2ヶ月がたち少しずつ小学校の生活にも慣れた頃で、大変楽しそうに親子ゲームやドッジボールなど行いました。

途中から保護者の方々はクラスに分かれ大山先生、北村先生にも加わっていただき保護者同士の話し合いをして頂きました。休みの日の開催とあって堅苦しくなく、和気あいあいとした時を過ごすことができたのではないかと思います。土曜クラブとしてこれからも子供たち、保護者同士のつながりが少しでも広がるよう活動してまいります。大勢のご参加、誠にありがとうございました。



中学校より



4月27日(金)香川大学教育学部附属高松小学校にて、四国附属学校連盟の総会が開催されました。中学校からは、役員4名が参加しました。他県のPTA役員員の選出方法・連絡網・親睦など短い時間ではありましたが、充実した会議となりました。

5月26日(土)には、「香川掃除に学ぶ会」の方をお招きし、校内美化、特にトイレの清掃に親子・先生で取り組みました。かなり汚れていたトイレが、ヤスリを使って磨くうちに、見違えるようにきれいになり、本当に感動しました。

7月9日(月)授業参観には、保護者同士の親睦を深めるために交流会も開催しました。

特別支援学校より

もしも…、の時にそなえて

本校では毎年熱中症や水の事故が起きやすい夏休み前に、坂出消防署より救急救命士の方をお招きして、保護者対象に「救急法講習会」を行っています。昨年は、プールで溺れている人を着衣のまま水の中へ飛び込んで救助する方法を実技講習しました。水の中では予想以上に衣服が重くなり、人を救助することの難しさを改めて知る有意義な研修になりました。

今年7月には、心肺蘇生法とけがをした時の応急処置法について講習会を実施しました。私たちに正しい知識があることで、もしもの事態が発生した場合でも少しは落ち着いて行動ができるのではないかと思います。今回は、救急車で出動した時の体験等も聞かせていただく等、とても興味深く学ぶことができ、命の大切さを見つめ直す機会にもなりました。



「実地教育の一環としての フレンドシップ事業の意義」

香川大学教育学部
附属教育実践センター 教授

七條 正典



「先生、単位はいらないからもう一度受けてもいいですか」。本年度、3年次生として附属学校で教育実習を行う予定の学生からの声です。フレンドシップ事業は、平成9年度から始まった事業です。本事業においては、受講する学生が、学校教育の場である学校から離れた野外での子どもたちとふれあう様々な活動体験を通して、子どもの気持ちや行動を理解し、教育実践のための実践的指導力の基礎を身に付けることを目的としています。

そして、平成13年度からは、附属学校との連携を深めるため、これまでの県立の五色台少年自然センターや屋島少年自然の家だけでなく、附属坂出小学校や附属高松小学校の宿泊学習に参加し、両校の子どもたちとのふれあいや附属の先生の指導を受けることにより、さらに充実した活動が展開されるようになってきました。受講希望も年々増え、本年度は100名近くになったため、抽選により約半数に制限せざるを得ないという状況となりました。これも、附属学校の先生方が、参加学生に対して、子どもたちの野外活動を支援する単なるボランティアとして接するのではなく、このフレンドシップの目的を踏まえ、そのねらいに向け、学生たちを育てる視点から様々なあたたかい指導助言を与えてくれるなど、実習体制が整った附属学校であればこそと感謝しているところです。

では、附属学校との連携の下、どのような活動をしているかについて以下簡単に紹介いたします。

(1) 事前研修

まず最初に、野外教育体験活動を始める前に、香川県教育委員会や少年自然の家、両附属小学校の先生方から、野外教育体験活動の意義や具体的にどのような活動を行うのか、また注意すべき点等について、お話しをうかがいます。

(2) 野外教育体験活動

受講生全員が、野外活動に関する基本的な知識や技術について学ぶため、五色台少年自然センターにおいて、一泊二日の日程で野外教育体験活動を行います。

その後、附属坂出小学校（屋島少年自然の家：一泊二日）か、附属高松小学校（室戸少年自然の家：二泊三日）かどちらかの野外教育体験活動を選択し、参加します。

(3) 野外教育体験シンポジウム

野外教育体験活動を通して学んだことを振り返り、グループや全体で話し合ったり、香川県教育委員会や少年自然の家、両附属小学校の先生方からの指導助言を受けたりすることによって、学びの深化や共有化を図ります。

以上のような一連の活動の中で、適宜附属の先生方から実践的な指導助言を受けるとともに、子どもたちとの具体的なふれあいを通して様々な教育指導上大切なことを体験的に学んでいます。

さらに詳しい活動内容や学んだ成果については「フレンドシップ事業実施報告書」にまとめているので、ぜひご覧いただきたいと思います。その中の学生からの感想の一部を紹介しておきます。「私にとってフレンドシップの活動は実習までの事前指導になった。子どもたちに少しでも私の気持ちが伝わるように、子どもたちの気持ちが分かるように常に意識して実習に取り組みたいと思う。」



修学旅行

中学校では、4月10日(火)～14日(土)まで4泊5日の修学旅行を行いました。屋久島から指宿、知覧そして長崎に至るコースです。屋久島では、各自で選択したコースに分かれて活動し、世界遺産にも指定されている豊かな自然を満喫しました。知覧および長崎では、戦争の悲惨さ、命の尊さ、平和の大切さをあらためて感じさせられました。



屋久島の大自然と共に



すばらしい歌声に感動

親子セミナー

6月20日(水)、世界的なオペラ歌手、小濱妙子さんとピアノ演奏者、小濱良子さんをお招きして、親子セミナーが行われました。オペラ「蝶々夫人」や「アヴェ・マリア」など、最高のオペラの世界を感じさせられる歌声でした。また、代表の生徒と「ドレミの歌」を歌ったり、会場のみんなで「ふるさと」を歌ったりと本当にすばらしい時間を過ごさせてもらいました。

中 学 校

外国人留学生との交流

5月28日、アメリカの大学から日本語を学ぶために来日している外国人留学生が本校を訪れ、子どもたちと交流を深めました。主に交流したのは本校の4年生でしたが、留学生の人たちは、ペープサートやカードゲーム等を準備してくれていて、とても楽しいひとときを過ごすことができました。



5年生屋島集団宿泊学習

6月7日～6月8日の2日間、5年生78名は、屋島少年自然の家に1泊2日の宿泊学習に出かけました。天候にも恵まれ、焼き板づくり、キャンプファイヤー、いかだづくりと予定していた全ての活動を行うことができました。また、香川大学のフレンドシップ事業で参加していた大学生とも仲良くなり、たくさんの思い出を作ることができました。



小 学 校

特別支援学校

附属坂出小学校との交流学習を通して

本校小学部は、毎年附属坂出小学校の4年生と交流学習を行っています。今年は、6月14日に4年東組、28日に4年西組の友だちと交流会を行いました。



事前に自己紹介カードやビデオでお互いに自分のことを知らせ、早くからこの交流会を楽しみにしていました。また、「もっと相手のことを知りたい」という小学生の願いを受け、本校小学部主事が附属坂出小学校で特別支援学校の子どものことを分かりやすくお話したり、質問に答えたりして、「より仲良くなるため」の心の準備をして、交流学習に臨みました。

当日、最初は緊張していた子どもたちも、全員で歌遊びやゲーム、ダンスなどを行ううちに緊張感もほぐれ、その後のペア活動でも、とても落ち着いて取り組むことができました。今回の経験を生かして、次回、合同運動会では、いっそう相手のことを理解しながら、関係を深めていく予定です。



幼稚園

高松園舎との交流会



6月15日、高松園舎の5歳児さくら組さん35名が坂出にやってきました。はじめましての挨拶・互いの園歌を披露した後、一緒にジャンケン列車をしました。最初は少し緊張気味だったさくら組と青組さんでしたが、巧技台や園庭での好きな遊び、ペアの友達とのお弁当を通して、徐々に触れ合うことができていました。園舎の友達が来たのは、今回がはじめてです。同じ香川大学教育学部附属幼稚園の子ども同士、これからも、こんな交流ができればいいなあと思います。秋には青組が高松園舎に行くよ。

青組のカラーテスト

6月19日、保育専門学院の実習生の先生と一緒に、お弁当の後、歯のカラーテストをしました。歯に真っ赤な染め出し液を塗り、どのくらいきちんと磨けているかを調べるものです。真剣に鏡を見ながら、歯の奥や裏の磨き残しを確認している姿がありました。



編集後記

今年は渇水のため、6月中旬にプール使用が中止になりました。一昨年もそうでしたが、渇水の周期が短くなってきているのでしょうか。県は将来を見据えた渇水対策として、地中にコンクリート壁を造り、地下水を堰き止める「地下ダム」構想を打ち出しました。

本年度中に新学習指導要領が告示されるようですが、子どもたちの成長も、今以上に附属坂出学園が丸となって、中・長期的な視野で考えていきたいものです。

皆様方のご協力、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

発行年月日：2007年7月19日

発行事務局：附属坂出小学校内

塩田 知子 (附属幼稚園)

横山 新二 森山 敬三 (附属坂出小学校)

環 修 木谷 直充 (附属坂出中学校)

岩本 豊 樫尾由美子 (附属特別支援学校)